

編集後記

昨年度より雑誌「人文地理」の編集にも関わるようになった。レフェリー付の雑誌、学界を代表する雑誌の編集をはずかると同時に、いろいろな発信の仕方はあろうかと、本雑誌の継続を企図しているし、誌面はごらんの通り、「人文地理」誌とは明らかに異なっている。その意味で、この雑誌のひとつの特色・売りは、質の高い外国語論文の訳出であろう。アングロフォンからの論文参照を通じて理論消化をはかっていたかつてとは異なり、いわゆる社会理論の吸収、独自の発信の研究者蓄積は進んできたように思われる。とは言いつつも今回の訳出論文を生み出すアングロフォンの地理学の土壌の深さは畏れ入る。引き続き良質な論文の訳出に、ご援助たまわれれば幸いである。

本年は、本科研の中心メンバーの久武哲也氏が逝去された。謹んでご冥福をお祈りしたい。その功績をしのび、次号企画では、文化地理学や地理思想史に大きな足跡をのこした久武氏の追悼企画を予定している。また日本の認知地理学のパイオニアであった中村豊氏もほぼ同じ時期に逝去された。哀悼の意を表したい。そして私に寄稿の打診をいただいていた、結局は遺稿となってしまったが、認知地理学の回顧とその解釈の稿を掲載することにもなっている。戦後生まれの早世の損失は学界にとって計り知れないが、同時に今年は地理思想史科研の30周年でもあり、戦後派も戦後史としてその研究対象になるのかもしれない。学界の生き残りに功を奏すかどうか不分明ではあるが、この雑誌の役割はこうしたところにもあると信じている。

今回も、引き続き編集協力をいただいている花野孝史さんの(有)地域・研究アシスト事務所に大変お世話になった。いつものことながらお礼申し上げたい。PDFでの閲覧は、下記URLを参照していただきたい。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/books.htm>

「空間・社会・地理思想」第11号編集代表者 水内俊雄

空間・社会・地理思想 第11号

発行日／2007年12月28日

編集／科学研究費基盤研究(B)「グローバル化時代における
公共空間と場所アイデンティティの再編成に関する研究」
(研究代表者 高木彰彦)

編集代表者 水内俊雄

編集協力／(有)地域・研究アシスト事務所

発行／© 高木彰彦

九州大学大学院人文科学研究院地理学講座

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1

電話 & ファックス 092-642-4476

takagi@lit.kyushu-u.ac.jp

印刷／ホウユウ㈱

〒590-0982 堺市堺区海山町 1-8-4

電話 072-227-8231 ファックス 072-224-1466
